

## 狂乱思考の「小悪人・川上道大」生き恥曝す!!

〒768-0011

賢明な読者の皆さんの多くから、小悪人・川上道大の  
狂った妄想、捏造記事に原告である四国時報は、一つ一つ  
狂人的とも言える被告川上の記事の矛盾や整合性、他を痛  
烈かつ、適確に指摘して糾弾反撃する原告と被告川上、相方の記事、主張を読解すれば、  
勝敗は最早明らかだとの評価を頂いています。被告川上の目論んだ、四国時報潰しに、  
世間の人々にさも原告が、被告川上の狂言するような立場の人物であるかの如く、又、  
印象付けようと苦心算段したのか、原告には全く関係の無い世界の出来事を組み合わせ  
たストーリーをもって、一昨年の原告が創刊した時期から、悪辣な挑発を続けている。  
原告が名誉棄損で提訴した訴状での主張の内容が、この被告川上の毎号の記事のほとん  
どが該当し、余りにも多項目に渡っておるので、特に限定して主張して下さいと、裁判  
長が言っただけであって、裁判長は、「原告主張の全容は十分に把握して理解していま  
す」と発言しています。又、弁護士に依頼してはどの発言は、被告川上には名コンビの  
元裁判官である生田暉雄弁護士が代理人であり、裁判所は、先ず本人訴訟の場合には、  
必ず法律の専門家に依頼してはと薦めるのが通例です。原告は、過去数件の裁判体験か  
ら弁護士の実態を見ており、「法律は一つ」弁護士用とか一般用とかの区別は無く、本  
人の訴えの内容を審判するにおいて、弁護士の必要性は、必ずしも無いとの信念で臨ん  
でいる。先般、1月24日の弁論時、裁判長の話の小悪人・川上道大は、都合良くこじ  
付けて、さも被告川上の報道記事に何一つとして名誉棄損の内容を原告が指摘できない  
かのよう卑劣に記す等、相も変らぬどうしようも無い奴だ。被告川上は、当初から原  
告を「六代目山口組倭和会の企業舎弟」や「子分」である等と断定して報じ続けるもの  
の、その裏付け立証の困難に至って、苦心したか「企業舎弟」から「共生者」と新たな  
表現に変えておる。ともあれ原告の四国時報も予想外の小悪人・川上道大の妨害行為は  
あったが、多くのご支援者の方々のお蔭で今号第17号まで毎月発行できるまでになり  
ました。原告の四国時報の記事の何処が、被告川上の主張するような「筋」に関連する  
のか？今更、説明するまでも無く、読者には明白に判別されております。このことを承  
知の上で、あえて支離滅裂な報道を続ければ続ける程、己の愚かさを世間に曝している  
のだ。原告の反論、反撃の文言が、その筋の役割を果たしている等と宣う。だから己は、  
狂っていると云われるのだ。むしろ、原告から言えば、小悪人・川上道大は、己の小心  
から常に戦々恐々と脅えるあまり、夢想、妄想で風の音にも脅える様が、3月5日の四  
国タイムズの記事から読み取れる。今回の見出しの表現は「天下の任侠団体」に原告如  
き者を組み合わせるとは失礼な話だ。小悪人・川上道大に何かと空気を注入する方面から  
何時のやら古い写真を入手して、如何にも悪意丸出しの注釈をつける稚拙な行為が、被  
告川上の人間性を露呈している。更に、四国タイムズの記事では、前・現知事が今にも  
逮捕されるかのように虚報を臆面も無く毎号で流布する報道を繰り返す… 裏面へ

観音寺市出作町 603-3

電話 0875-25-6883

編集発行人 木下 俊明

大嘘つき、だから狼おっさんと笑われているんだよ道大ちゃん!ゴロ付新聞如きが、自分の記事にベロベロに酔い、調子に乗って自分で「ラストサムライ」とは笑わせますね。空気を入れられ、四国時報に喧嘩を仕掛けたものの、あっさりその刀はへし折られ、「さや侍」に。何か木下を叩くネタはないかと時間に追われ「ぜんまいざむらい」の如く狂奔するも、これまたお粗末な事に、大法螺吹きで名を売る観音寺市常磐地区在住の十鳥晴美(男)たちの偽情報ばかり。ここで、一昨年からの一連の四国タイムズ記事を被告川上自身が精査することですね。思い付きで、裏付けの無い記事や主張を行っていることに、馬鹿なりに気付くはずなのだが?主張の内容に一貫性が無く、反論、指摘されると逃げまくり、別の事を言い出す等、一覽にして自分で検証しなよ道大ちゃん。そうして鏡を見て確認してごらん?きっと厚顔な道大ちゃんでも赤面した自分に驚くと思うよ。もっとも自分を見つめる心の目を持っていればの話だがね。まあこの男に付ける薬は無しか。原告の関係の無い世界の出来事に「坊主憎けりや袈裟まで憎い」と邪推した御仁へ追従する小悪人・川上よ。そんな川上をどう表現したらいいのかなあ?以前にも言ったが、「自分の糞や屁は臭わない」そんな輩の一人だよ道大ちゃんは。「…か」「…くるようだ」「…と取られても仕方がない内容だ」「…いるようなものではないか」そして十八番の「看過できない」と得意の台詞を並べ立て、今、流行の悪性ウィルスやダニ、インフルエンザ菌のような「悪人ウィルス菌」や「川上媒介感染症」これを撒き散らす行為同様には、当然、防疫かつ防衛的に対処。この手の輩には少しでも隙を見せれば、つけ込まれるだけだ。ある人の話だが「私は四国タイムズの記事に飽き飽きしている。同社を真っ当な新聞社とは思えず、社主の川上道大なる人物は、さも公共的社会正義を装いながら、現実には公序良俗の破壊者だと思っています」と語っていました。世間では「盲目千人、目明き千人」と様々です。悪足掻きを続ける道大ちゃんとの果てし無き闘いは、挑発が続く限り、断固徹底抗戦で対応します。読者の皆さんにおかれては、原告の「悪人ウィルス」退治ぶりをお楽しみ下さい。ところで、被告川上が如何に厚顔無知であるかの証左の一つに、3月5日号四国タイムズ2ページ左下に、他の被告川上に対する名誉棄損訴訟での敗訴判決を臆面も無く記す無神経ぶりだ。四国時報号外パート10に記した刑事事件として最高裁判決を下された前科持ちの反省は何処へやら。またぞろ、ある女性への賠償と詫び状の判決を一審及び二審共に敗訴したにも関わらず、小悪人・川上道大の常套手段でもあるが、最高裁へ上告を勝ち目に関係無く抵抗する悪足掻きの様子を平気で四国タイムズに掲載しておく。こと左様にこの小悪人・川上道大は、敗訴等「屁のカップ」単に争いを長引かせることで、記事化することを常とする輩だ。同じく3ページ左下の原告及び四国時報を中傷する記事。以前にも使われた写真であるが、撮影時期は「倭和会」が発足する前の「盛力会」時代の写真であり、古くからの友人であった、当時の盛力健児会長が地元観音寺に帰郷した際の会長秘書たちとの1枚である。だから?それが企業舎弟なの?この古い写真を使い「飯田会長舎弟の関係者らと木下」「ヤクザを従がえる木下」と表現するのは、頓珍漢な表現ではないか。馬鹿も休み休み言って欲しいものだ(笑)この写真を振りかざし「企業舎弟」と言うなら、観音寺市だけでも名前出したらキリが無い位「企業舎弟」が存在することになる。地元の世話役を買って出た者全員が「企業舎弟」になるのか?読者の皆さん如何ですか?